



## 完全保存版「自然素材住宅塾」



今の住まいと将来の住まいに役立つ情報満載

こんにちは。駿河屋の九代目当主一樹です。

冬でも休日は山に出掛けて美味しい空気を沢山吸い込んでリフレッシュしております。やはり自然の空気は美味しいですね。住まいでも、自然の中の美味しい空気、健康に暮らして頂きたいという想いが、僕たちの住まいづくりに繋がっています。

さて、これからの住宅業界は益々、断熱と気密化の流れが強くなってきますが、密閉してしまったら室内環境や空気は悪くならないの？ 苦しい住まいにならないの？ という質問を頂くことがあります。

今日はそんなお話し。

それでは、今月も子育てママにお役にたてる、おうちの中で大切なこと、発信します！

### 【住宅業界は高气密化の流れ。なにも問題なし？】

日本経済が成長していく歴史のなかで、経済性、利便性、施工性、生産性などを重視した住宅が普及していきました。

残念ながら、そこに使用される建材は、健康や安全性への配慮が欠けていたことよって、1990年代に化学物質過敏症やシックハウスが社会問題となりました。これは、住宅の気密化が進んだことも原因の1つだと言われております。

木製だった窓や扉が、気密性の高いサッシやドアに代わっていったことにより、今まで風通しのよい家、隙間風があった家が、外の空気が入りづらい住宅になっていったのです。

しかし、現在の日本の住宅の気密性は、世界基準からみるとかなり遅れているというのご存じでしょうか。簡単に言うと、先進国の住宅よりも、隙間だらけの家ということとです。

「次世代省エネ基準」という言葉を聞いたことある方もいらっしゃると思います。

これは住まいの省エネルギー性を高めるための基準ですが、大きな意味でとらえるとなると、「快適さ」「健康的」「省エネルギー」「耐久性」の4つのキーワードで表さ

れる、今の基準の住宅よりも質の高い 住まいを建てるのが主な目的となっています。そのため今までの基準よりも高い断熱気密性が求められていて断熱気密以外にも、さまざまなことが提案されてます。

つまり、今までの住まいづくりの知恵を総集してより質の高い住環境を実現していかうというものなんですね。

その基準は2020年（平成32年）までに新築住宅で義務化することを国が目指しております。そうするともう目の前ですよ。

であれば今、住まいづくりやフルリフォームを検討の方はこの基準をよく理解しておく必要があるということです。

さてさて、話しを現代の住宅にもどしますね。簡単に言うと、現代の住宅は隙間だらけの家と言いました。なので次世代省エネルギー住宅は、世界基準に少し近くなる高气密・高断熱化が進められています。

なにしろ日本の住宅は、先進国の基準と比べると、暑くて寒くて我慢する住宅なので住宅での心筋梗塞や脳溢血などの死亡事故は先進国でも上位です。

こうした現状を踏まえても、高气密・高断熱化によって、暖かい住まいになることで、健康被害を減らすことがとても大切なことなんですね。

しかしここで、私は1つの問題が発生するのではないかと心配してるんです。ただでさえ換気をしない、もしくは正しい換気方法を知らない方が増えている中で、シックハウスや化学物質過敏症の症状を訴える人が、こうした住宅性能の変化によって、さらに増えるのではないかと思うのです。

ですので今後の住宅は、素材についてしっかりと勉強し、正しく選ぶことが、益々大切になってくると思います。

もっと詳しい内容を知りたいと言う方はメルマガ  
「社長の厳選素材住宅論」で検索  
ニックネームでの登録も可能です。

